



～店頭映えする映像を求めて～ えっ！これ、職員がプロデュース!? プロバスケットボールチームと連携した 住宅用火災警報器の啓発映像を製作



愛知県 豊橋市消防本部

事例類型	IV他団体との連携／VI広報活動
取組期間	平成30年4月から

背景

本市では、全ての住宅に平成20年6月から住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の設置を義務付けており、火災予防運動、地域の行事や訓練、各種イベント等の機会を捉えて設置及び維持管理について普及啓発に努めている。これらの活動により設置率は年々上昇し、平成24年には約80%に達したが、平成30年は約86%で、横ばい傾向となっている。

また、住警器の取換えは10年が目安とされている。そうした中で、従来からの広報ツールであるチラシ、ラジオ、ホームページのみでは、市民が手にとって、聞いて、ページを閲覧しないとそれらは効果を発揮しないため、「意図せず目に入る広報」を検討した。何気なく入った店内で興味を引く啓発映像が流れていたら、それを見た利用客が「うちのもそろそろ交換?」と気づいてもらえるのではと考え、本市をホームタウンとするプロバスケットボールチーム三遠ネオフェニックスとコラボした映像の製作を考えた。チームのファンクラブの加入世代は40代、50代、30代の順に多く、この世代は住警器の設置普及率は高いものの住警器の取替えが必要となる世帯が多いと予想されることから、その世代向けに映像を製作した。

内容

【啓発映像の一部（左）と職員が書いた絵コンテの一部（右）】



●啓発映像のイメージ

② 録音機 (G)	プロバ選手 (赤)	向い合って1on1。 D選手がドリブルし、今は「抜く」という感じの 対面している。	② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
③ D選手が抜こうとするが、S選手が抜せない。		「フェニックス上で、大切なのは、相手の一瞬の動き も見逃さないこと。」	② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
⑥	①の方向へだけ 見せかけろ。 ②の方向へ。 ③カメラの見え角で スニールする。	④ S選手 「ステップ。 （間をあげる） そう、煙の動きを 決して見逃さない 住宅用火災警報器のようにな...」	② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
⑦		録音機のショットン	② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

低予算で製作するために、「絵コンテ」を作成する必要があった。目指したのは、30～50代の世代が興味を持ち、点検の動機付けになる映像である。店内で映像を利用客に見てもらうには、前半部分にギャップとインパクトが必要であると考えた。そこで、まるでフェニックスの広報映像のようだが、最後までみると住警器の啓発だとわかる構成にした。その内容は、命を守る住警器の「守る」部分にフォーカスし、白いユニホームの選手（住警器をイメージ）が赤いユニホームの選手（炎をイメージ）からゴール（家族や大切な命）を「守る」様子を表現したものとなっている。さらに声撮りを行わず、訴えたいことをテロップで表現し、ギャップをプラスした。煙の中での攻防が、火事の緊迫感を演出し、さらに煙で感知する住警器を連想させる。

成果

映像は、市内だけでなく、近隣消防本部（豊川市、蒲郡市、新城市、田原市）の協力を得て、各市の販売店などで放映を依頼し、東三河地域（豊橋市を含む5市を指す）の55店舗で映像が放映された。この取組から、近隣消防本部とは「レシート広報」と東三河地域の玄関口である「豊橋駅での街頭広報」を水平展開し、初めて連携した火災予防広報を実施した。レシート広報は東三河地域18店舗のスーパー等で実施し、街頭広報は各市（参加は3市）のゆるキャラやフェニックスのマスコットが参加し、学生やサラリーマンなど幅広い世代に火災予防を呼びかけた。

なお、街頭広報は地元紙にも取り上げられ、市民の関心を集めた。

【撮影日（平成30年9月：OSG体育館）の様子】

●映像撮影時の様子



特記事項

苦労した点は、絵コンテから撮影、当日の選手の演技指導までを職員が行わなければならないことと、選手の拘束時間が2時間と決まっていることであった。絵コンテは、様々な広報映像と出演する鈴木選手のプレーを分析し、住警器の「守る」部分と選手の得意なプレーである「ディフェンス」をコラボさせた。出来上がった絵コンテで、チームの広報担当者及び機材をレンタルした会社の担当者と一緒に撮影場所の体育館でリハーサルを行い、選手の動き、カメラ及び照明の位置、動きの継続時間、カット数など細かい部分まで打合わせを行った。事前の調整のおかげで、当日は2時間以内で撮影を終えることができた。また、緊迫感のあるシーンで演出効果を高めるため、本市所有のスモークマシンを駆使し、思うような煙を作り出すために職員がうちわで扇いだり、煙の中を走り回って煙がうまく空間に漂うよう工夫した。